

## 研究ノート

## 小学校教員採用試験対策の現状と課題

牧口 典子 (白百合女子大学)

Noriko Makiguchi (Shirayuri University)

## 1 はじめに

筆者は、東京都公立小学校を定年退職した後、白百合女子大学（以下、本学とする。）で非常勤講師として小学校教員養成にあたった。後進を育てることは喜びであり、やりがいがあった。学生が、教員になりたいと個人的に論文や面接指導を依頼してきた折は、喜んで指導してきた。

2014年度に特別専任となってからは、教員採用試験を受験する学生の指導を組織的に行ってきた。組織的というのは、非常勤講師の折の個人的な指導に対して、学内外の助力を受けたり、学生を一堂に会して指導したりという意味においてである。

この3年間で、筆者が毎年指導してきた学生は、多い年で15名であった。

しかし、今年度（2016年度）から初等教育学科が新設され、現在25名が初めから小学校の教員を志望し学んでいる。3年後の2019年には、このうちかなりの数が教員採用試験を受験することを考えると、事務方だけでなく教員側も指導体制・内容を充実させていく事が課題と考えた。

そこで、本学におけるこれまでの小学校教員採用試験対策の現状と課題について記録し、それを今後の指導体制・内容の充実に生かしてほしいと願い、まとめた。

## 2 小学校教員採用試験合格者の推移

## (1) 4年次の教員採用試験

Table 1は、小学校教員採用試験の合格者数である。

Table 1 小学校教員採用試験の合格者数（公立・私立含）（資料提供 キヤリア支援課）

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
合格者	12	20	12	14	5	4	15	8	5
(内、東京教師養成塾生)	(7)	(6)	(6)	(7)	(3)	(3)	(3)	(5)	(2)
小免取得者数	30	47	27	21	17	14	20	17	22

合格者数が年度によってばらついているのは、1年次から教職を目指して入学する学生ばかりではなく、年度により免許状取得者数が違うためである。

## (2) 3年次の東京教師養成塾入塾試験

東京教師養成塾は、東京都教育委員会が2004年に開塾したもので、大学と連携して4年生を1年間、都内指定小学校に派遣し、豊かな人間性と実践的指導力を兼ね備えた人材を学生の段階から育成することをねらっている。

本学は、2007年度から連携大学に指定され、10名の推薦枠をもらった。(塾生になるには大学推薦が必須で、本学から10名前後推薦してよいという意味である。)

Table 2は、3年次の12月に選考がある東京教師養成塾入塾試験の合格者数である。合格者は4年生になると、指定された学校において40日間の現場研修や東京都教職員研修センターにおいて月2回程度の研修等に参加しなければならない。教員採用試験の一次は免除となり、8月最終週に行われる特別選考(面接)に合格すれば、翌年から正規教員として採用される。

本学における東京教師養成塾との連絡や事務手続き等は、全て資格課程課が当たってきた。

Table 2 東京教師養成塾入塾試験合格者 (資料提供 資格課程担当)

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
推薦枠	10	10	10	10	8	6	5	5	5	5
受験者	8	13	6	10	5	4	5	5	4	2
合格者	8 (内1名辞退)	6	6	7	5	3	3	5	2	2
募集人数	100	150	150	150	150	150	150	140	130	130

東京都が募集した人数は2008年に50名増えた。2014年から減っているのは、初めは小学校コースだけだったが、2014年度から特別支援コースができた分、小学校コースの人数を減らし、募集人数の総数を150名と維持したからである。

連携大学の増加により、本学の推薦枠が減少している。(2016年度44大学)

### 3 指導体制・内容の経過

本学に初等教育教員の養成コースが開かれてから現在に至るまでには、事務方の担当部署や教員側の指導体制も変化している。前任が創り上げたものを引き継ぎながら、担当者は常に改善を図ってきた。資格課程課とキャリア支援課からの情報を基にその経過を記す。

#### (1) 2005年度～ 資格課程の創設, 教員採用試験対策

本学で初等教育(幼稚園, 小学校)教員の養成コースが開かれたのは、2005年度からである。初等教職課程は、文学部児童文化学科児童文学・文化専攻に設置された。初年度は、1・2年生が履修を開始した。

事務方は生涯学習・資格センターがあたり、2006年度後期から時事通信社と連携して主に3年生を対象として教員採用試験対策が行われた。教員側は、児童文学・文化専攻の教職科目担当教員2名と東京都公立小学校元校長で退職後、非常勤講師となったA氏が指導にあたった。

#### (2) 2009年9月～ 資格課程課による教師力養成講座

2009年9月からは、11号館の竣工に伴い2階が事務フロアで構成された。生涯学習・資格センターが廃止され、事務方は資格課程課に移った。教員側は、引き続き、A氏が指導にあたった。

2010年から教師力養成講座が前期、後期に開設された。資格課程課が周知し、A氏が2013年前期まで指導し、氏の退職に伴い、講座も終了した。(資料① 参照)

#### (3) 2013年度～ キャリア支援課による東京アカデミーの講座開設

2013年度から教員採用試験対策は、キャリア支援課に移った。キャリア支援課は、東京アカデミーと連携し、本学で対策講座を受講できるようにした。受講料は2013年度、無料であったが、途中で辞める者も多かったので、2014年度からテキスト代を自己負担とした。この講座では、後期の木曜・5限に教職教養・専門教養の講義と論文・面接の指導がある。また、学外での全国公開模試にも3回参加できる。対象学年は3年だけでなく、

1年からでも受講できる。(資料② 参照)

講座は現在も継続しており、2016年度の小学校志望の受講者は12名である。  
この間の教員担当者は、初等教育・中等教育とも教職科目担当と実務家教員のそれぞれ2名が指導にあたった。

#### (4) 2014年度 稲城市教育委員会との教職連携講座

2014年度からは、事務方は引き続き、資格課程課、キャリア支援課が担当した。この年から筆者も指導にあたったので、教員側について詳しく記す。

##### 4年生向け

この前年(2013年)、本学と稲城市教育委員会が連携を結んだことにより、中等教育担当のB氏が中心になって教職連携講座を開いた。これにより、稲城市教育委員会の依頼のもと稲城市公立中学校長会とも連携し学生の指導にあたった。具体的には、5月～6月の水曜日6限に、担当となった中学校長が本校で論文指導講座を7回実施した。7月～8月には、稲城市の中学校に学生が行き、面接指導を3回受けた。

学内でも5月～6月は論文指導を行い、7月～8月は面接指導にあて、全員集合しての全体指導の他、志望県別、養成塾生と分け、総計9回行った。

この年は15名と大勢受験者したが、13名も合格(私立を除き公立小のみ。期限付、特別任用を含む。)できたのは稲城市公立中学校長会の助力が大きい。

##### 3年生向け

東京教師養成塾入塾試験(12月)を受験したい学生のために、10月から論文指導を行った。この時期、3年生はほとんど教育実習に入るため、希望者全員を集めて全体指導を行うことは叶わず、一人一人に論文の書き方から指導する状況だった。

面接指導では、筆者の他、専任教員2名、非常勤講師で校長経験者のC氏も加わって、4名体制で受験者に対応でき内容も充実したので、大学推薦の5名全員が合格となった。

#### (5) 2015年度

##### 4年生向け

2015年度は、8名と受験者が少なく、うち5名は東京教師養成塾生であった。塾生は、一次試験を免除され30分の個人面接を行う特別選考を受けることになっている。そのため、試験前に2回の面接指導をした。

東京教師養成塾生以外の3名については、初等教職課程担当の2氏の他、面接指導にはC氏にも加わってもらった。受験者3名のうち1名は、大学による面接を受け、東京都の大学推薦をとった学生だった。東京都を受ける学生が大学推薦をとると、一次試験免除となり30分の個人面接の特別選考を受けることになる。この学生については5月～7月末まで毎週火曜の3限に計12回、面接指導、特に場面指導を行った。結果は、期限付任用となった。前年度も東京都を大学推薦で受験した学生が期限付任用であった。このことは、大学推薦をとっても決して合格を約束されるものではなく、むしろ推薦された学生の中から面接だけで選抜されるという合格基準の厳しさがあることを学生に周知しておくことが肝要である。学生の中には、一次試験対策をやらないで済むと安易に考え、大学推薦をとることを第一に考えている者がいるが、面接での受け答えで勉強したか否かはすぐ露見してしまう。地道な試験勉強を指導する必要がある。

結果として、2015年度の受験者8名は全員合格した(期限付を含む。)

##### 3年生向け

2015年度は、東京教師養成塾を希望する学生が2名、夏休み中に論文指導をしてほしいと願ってきたので、筆者の自宅のFAXを使って指導した。

大学推薦枠は5名あったが、10月半ばに4名が大学での面接を受け、全員合格した。

合格者たちは教育実習が入り、この時も全体指導はできず、実習がない期間に一人一人に論文指導をした。加えて、面接指導では緊張感をもたせたり、相互評価をさせたりするので4名が日程を合わせられる11月の

土曜日の午後に2回行った。そしてさらに、12月にもう2回実施し、受験に臨ませた。結果は2名のみの合格となった。

これらのことから東京教師養成塾対策として、直前に教育実習が入ることが分かっているので、論文練習に取りかかるのは夏休み中からがよいこと、夏休み中から教職教養・専門教養の過去問を自習させることが必要と反省した。

## (6) 2016年度（今年度）

### 4年生向け

今年度、人間総合学部が新設されたことに伴い、初等教育担当の教員も増えたのは心強かった。D氏は茨城、筆者は東京の教員だったので、神奈川の教員だったE氏が加わったことにより、神奈川県採用試験受験志望の学生に対応できるようになった。

### ① 教員側の指導体制

今年度は、役割を分担し、学生の志望県ごとに絞って個別指導を強化することにした。分担は次の通りである。

- D氏……学生への全体指導
  - 資格課程・キャリア支援課との連携
  - 初等教育学科への報告・連絡・相談
  - 教員採用試験受験者の大学推薦の面接及び推薦書作成
  - 東京教師養成塾との連絡、入塾志望者の面接及び大学推薦書作成
- E氏……学生の論文指導・面接指導（主として神奈川担当）
  - 東京教師養成塾生の指定校との連携及び研究授業指導
- 筆者……学生の論文指導・面接指導（主として東京・埼玉・岩手担当）
  - 東京教師養成塾生の指定校との連携及び研究授業指導
  - 東京教師養成塾との連絡、入塾志望者の大学推薦書作成

### ② 指導時間の設定

初回の集まりで、今年度の受験者は9名（うち2名は東京教教師養成塾生）と分かった。東京教師養成塾生は一次試験が免除なので、論文・面接指導対象者は7名。各自の空時間を聞き、全員集まれる時間を調整した結果、火曜4限を始まりとし、5限でないと集まらない学生のために5限半ばまでを指導時間とした。時間設定は今までも大変だったが、たった7名でも全員が集まる時間はとりにくい。指導者としては、はじめは全体指導で徹底させたいことがあるので、全員が集まれる時間がほしい。場所は4509を使用した。

### ③ 具体的な指導内容

4月12日 **全体指導**

- オリエンテーション ・学習時間、場所の決定 ・各自の受験先の聞きとり
- 受験勉強の方法（教職教養・専門教養、論文、面接、模擬授業） ・本勉強会の進め方

4月19日～5月31日 **論文の全体指導** を7回実施。

6月～7月4日 **論文の個別指導**

- 神奈川組、東京組に分かれ、各自、論文を書いたら担当者（E氏、筆者）に見てもらう。

7月12日から8月2日まで **面接の全体指導** を4回実施。

この他に、神奈川組、東京組に分かれて面接練習を実施した。神奈川県は模擬授業を実施するのでその対策が必要だったからである。（実施3回）

東京組では、東京、埼玉、岩手の選考内容に対応しながら行った。東京の面接では、指導計画を作成し、それに基づいて質問がなされる。一次発表後は大学の夏季休業期間となり学内で指導ができず、自宅 FAX や電話を使って指導をした。

また、東京教師養成塾生には、塾の担当教授や指定校で面接指導をしてくださるが、大学としても1回実施した。

### 3年生向け

4月初め、東京教師養成塾に入塾したいと2名の学生が申し出てきた。積極的に準備を考えており、現4年の塾生から話を聞きたいと希望。そこで、筆者が仲介し、7月末の昼休みに4年の現・塾生2名と入塾志望の3年2名とを会わせた。現・塾生から「論文は夏休み中から書く練習をした方がよい、中学校までの教科書を読んでおく、特に数学と理科は復習しておくといよい、キャリア支援課主催の講習は受けた方がよい」等を助言された。E氏と筆者も立ち会ったが、大変参考になり、次年度も設定したいと考えた。

9月に資格課程担当から入塾説明会があったが、参加者は2名。ここ数年、本学には5名の大学推薦枠があるが満たない。D氏やE氏、筆者が担当する授業の中で、再三、東京教師養成塾のメリットを伝えたが、1年間も指定校へ通うことへの抵抗もあるようだ。

2名は学内での選考に合格した。1名は教育実習と重なったので、個別に論文指導をし、実習終了後に4回、面接練習をした。結果は、2名ともに合格した。

## 4 課題と今後に向けて

### (1) 学生への指導

2016年度は9名受験し、合格は5名であった。(東京教師養成塾生2名含)

本学の学生は、学力はあるが、競争社会には慣れていず、のんびりしている。

2016年度の結果と学生の実態を考えると、次のような課題が残る。

#### ○学生の教員採用試験対策への意識改革

4年の4月からでは間に合わない。3年夏休みを有効に使わせる。遅くとも3年教育実習後には進路を決断させ、1月には論文の全体指導を実施し、春休み中から書かせる必要がある。また、大学推薦を受けると採用試験に有利と誤解し、はじめから推薦をねらう学生がいる。大学推薦の意味を教え、むしろ中味の濃い競争となることを指導する必要がある。

#### ○教員採用試験対策講座の受講

一次試験が通らなかった学生がおり、教職教養・専門教養の復習が肝要であることを痛感した。キャリア支援課と連携して、3年次にキャリア支援課主催の教員採用試験対策講座を受講させるとともに自学でも確実に理解させる必要がある。

#### ○東京教師養成塾の大学推薦枠の活用

東京都の教員を希望するなら、資格課程担当と連携し東京教師養成塾に入塾することを勧める。大学推薦枠を全部満たし、1年間学ばせて教師の資質・能力を身に付けさせたい。

#### ○社会人としてのマナーや報告・連絡・相談・確認の徹底

合否の受験結果を報告する、面接の復元を提出する等、事前指導してもなしのつぶての学生が毎年いる。事あるごとに報告・連絡・相談・確認の大切さを指導し、社会人としてのマナーやルールを身に付けさせる必要がある。

### (2) 大学側の指導体制

来年度(2017年)の受験希望者は12名程度なので、現状の指導者で賄うことができる。今後、2019年度受験に

向けて、下記の点を検討していく必要があると考える。

○全体指導の時間の設定

学生にとっては、受験対策の指導を受けることは強制ではなく自由参加とするが、指導者側としては一堂に会して全体指導できる時間が一コマほしい。

○指導者の増員

2019年度は受験者が今より多くなる。論文・面接指導において、個別指導の内容充実を図ったり、時間を確保したりするため、協力していただけるとありがたい。

○各県の教員採用試験の分析

学生が増え、地方出身者が地元を受験することも考えられる。現役合格は地方では難しいが、それでも希望する学生に対応できるよう該当県の試験傾向を分析する必要がある。

○キャリア支援（担当部署）との一層の連携

学生がキャリア支援課主催の講座を受講できるよう時間割を調整する。また、キャリア支援課では、首都圏教育委員会の採用説明会等を学内で実施しているので、学生が多く出席するよう、教員側も学生に啓発する。さらに、キャリア支援課は採用情報が豊かで面接指導が充実しているので、面接指導をしてもらうよう学生に促す。学生には、受験結果を必ず報告させる。それは、キャリア支援課には随時、講師採用の情報が入るので、不合格になった学生に紹介できるからである。

○資格課程（担当部署）との連携

教員免許状に必要な単位を修得できなければ、採用は取消になる。学生には、授業時に、成績がでた都度、確認するよう周知徹底する。

東京教師養成塾関係も担当しているので塾生には随時、活動状況を自主的に報告させる。

以上をふまえ、学生は3年次から4年次にどのような対策をしたらよいか私案を作成してみた。(資料③)

また、教員側はどのような内容を指導したらよいか私案をまとめてみた。(資料④)

今後の参考にしていただけたら幸いである。

## 5 終わりに

初等教育学科創設によって、教育界に多数の人材が輩出されることとなる。この営みに携われることは喜びである。今後も、自分自身、教員採用試験にかかわるアンテナを高くして学生に情報提供しつつ、指導の充実を図っていきたい。

## 資料① 資格課程課主催の「教師力養成講座」

# 教師力養成講座 2011

教員免許を取得希望の皆さんは、少なからず教職という職業に興味を持っていることでしょう。でも、教職ってどうやってなればいんだろう？と漠然と考えている方が多いのではないかと思います。そんな皆さんのために、教職の基本を学びながらも、より具体的で実践的な教職のための講座を用意いたしました。教師という仕事に熱意と情熱を持つあなたはもちろんのこと、まだ迷いながら学習しているあなたも、ぜひこの講座に参加し、資格取得という机上の知識だけでなく、「教師力」という将来を担う子どもたちの導き手となれる力を磨きませんか？ 本講座は、教員採用候補者選考試験は元より、東京教師養成塾対策や大学推薦対策など、豊富な内容を盛り込んでいます。

## ここがすごい！ 教師力養成講座

### ●「受かりたければ、敵(採用側)を知れ」～ 東京都の校長職を歴任した講師が担当

人物重視の面が強くなっている昨今、論理の学習だけでは教員にはなれません。採用試験に合格するには、実際、採用に携わっていた側のノウハウが必要です。そのため本講座では、東京都の校長職経験者を講師に招き、教職に就ける力をトレーニングします。担当講師としては、塚野征講師を予定しています。

### ●「効率の良い時間とコストで学ぼう」

教員採用試験対策講座は、一般の予備校や専門学校でも有意義な講座が開講されていますが、何しろ高額な履修費がかかります。その上、予備校や専門学校に行き来する時間的なロスも考えられます。大学の授業が終了した後、夜からまた違う学校で勉強。大変ですよね？ それに比べて教師力養成講座は高額な履修費はかかりません。また、時間・場所についても木曜日のⅢ限を予定し、学内で行いますので、本来予備校や専門学校へ移動にかかっていた時間も、勉強や他のことに有効活用できます。

### ●「自分にあった方法で教職につこう」

小学校の教員になるには、何も教員採用試験を受験するだけではありません。大学推薦、東京教師養成塾へ入塾など、いろいろな方法があります。本講座はそれぞれの対策についても行いますので、自分が受験する対象の試験についても効率よく学ぶことが可能です。

\*\*\*\*\*

## 講座内容

開講期	日程	内容
前期	4月28日(木)	◆学校現場が求めている教師像(講義) *教師を目指す理由(論文作成)
	5月12日(木)	◆論文の書き方①(講義) *望ましい学習指導について(論文作成)
	5月19日(木)	◆論文の書き方②(講義) *生徒指導に関する考え方と実践について(論文作成)
	5月26日(木)	◆論文の書き方③(講義) *今日的な教育課題について(論文作成)
	6月2日(木)	◆望ましい個人面接の受け方①(講義) *個人面接の実際①
	6月9日(木)	◆望ましい個人面接の受け方②(講義) *個人面接の実際②
	6月16日(木)	◆望ましい集団面接の受け方①(講義) *集団面接の実際①
	6月23日(木)	◆望ましい集団面接の受け方②(講義) *集団面接の実際② ◎まとめ
後期	未定(6月初旬に揭示予定)	
開講時限	木曜日Ⅲ限 教室は後日揭示します	

## 講座対象者

各学科専攻とも2年生以上を対象

## 申込み方法

4月28日(木)10:00までに下記のいずれかの方法で申込みしてください。

### ●メール申込み

Eメール: shikaku@shirayuri.ac.jp

必要事項: 氏名、学科、専攻、学年、メールのタイトルに「教師力養成講座申込」としてください。

### ●直接申込み

資格課程課(11号館2F)へ直接申込みください。

資料② キャリア支援課主催・東京アカデミー協力の「教員採用試験対策講座」

2017 年夏受験対策

目指せ現役合格!!合格

# 教員採用試験 対策講座

主催:白百合女子大学学生部キャリア支援課 協力:東京アカデミー

**講座内容** 教員採用試験対策予備校の生講義が白百合女子大学内で受講できます!!

出題範囲の広い教員採用試験では、闇雲に全範囲を学習しても高い学習効果は得られません。重要なのは出題傾向を知り、頻出分野を効率よく学習することです。

本講座では、教員志望者には必須科目である「教職教養」と「論作文」について、採用試験に精通した講師が重要ポイントをわかりやすく講義するとともに、各科目の学習方法を伝授いたします。

## 講義日程

日程	曜日	科目	時間
10月 6日	木	教育原理 ①	16:20~17:50
10月 13日	木	教育原理 ②	16:20~17:50
10月 20日	木	教育原理 ③	16:20~17:50
10月 27日	木	教育原理 ④	16:20~17:50
11月 3日	木	教育原理 ⑤	16:20~17:50
11月 10日	木	論作文 ①	16:20~17:50
11月 17日	木	教育心理 ①	16:20~17:50
11月 24日	木	教育心理 ②	16:20~17:50
12月 1日	木	教育法規 ①	16:20~17:50
12月 8日	木	教育法規 ②	16:20~17:50
12月 15日	木	教育法規 ③	16:20~17:50
12月 22日	木	教育法規 ④	13:00~14:30
		教育法規 ⑤	14:40~16:10
1月 12日	木	論作文 ②	16:20~17:50
		教職教養確認テスト	18:00~19:30
1月中旬	日	第1回全国公開模試 9:30~14:50	会場:東京アカデミー東京校
3月上旬	日	第2回全国公開模試 9:30~14:50	会場:東京アカデミー東京校
4月 13日	木	人物試験対策ガイダンス	16:20~17:50
5月上旬	日	第3回全国公開模試 9:30~17:50	会場:東京アカデミー東京校

※本カリキュラムはモデルです。日程・時間の変更はございませんが、科目順は変更になります。  
確定版は講座初日の10月6日(木)にお渡しします。

※第1回~第3回の全国公開模擬試験は、いずれも東京アカデミー東京校での受験となります。



資料③ 学生から見た受験対策と学習内容 (私案)

学年次・月	首都圏の教員採用の動き	学習内容			
		教員	キャリア支援課・資格課程	対策講座	自習
3年・8月					一般的な教職教養・専門教養
9				教職教養・専門教養	↓
10					
11					
12			学内での採用説明会に参加	↓	↓
1		論文練習		論文練習 公開模試参加	志望県に絞った過去問
2		↓			↓
3	募集説明会		志望県の決定	公開模試参加	
4年・4月	募集説明会	受験票の書き方	大学推薦申込み	面接練習	
5	受験申込み		大学推薦の面接	公開模試参加	
6		↓			
7	第一次選考	面接練習			
8	第二次選考	↓			↓
9					
10	合格発表				
11		採用カードの書き方	教員免許状一括申請		
12					
1					
2	教育委員会の面接				
3	着任校の面接		教員免許状受取		

資料④ 教員側 3・4年生への指導内容 (私案)

	3年生への指導内容		4年生への指導内容	
	東京教師養成塾生志望	左記以外の教採志望	東京教師養成塾生	左記以外の教採志望
4月			・塾生としての心構えと連絡	・受験票の書き方指導 ・論文指導 (全体)
5月			・指定校へ研究授業指導	・論文指導 (全体)
6月			・指定校へ研究授業指導	・論文指導 (県別)
7月	・教育実習事前指導の授業時に進路指導 ・現・養成塾生と懇談の場の設定		・指定校へ研究授業指導 ・面接票の書き方指導	・面接指導 (7～8回) ・面接票の書き方指導 (第一次選考)
8月	・論文指導 (全体)		・面接指導 (1～2回) ・(面接のみの特別選考)	・面接指導 ・模擬授業, 学習指導案検討 (第二次選考)
9月	・論文指導 (個別) ・受験票の書き方指導		・指定校へ研究授業指導	
10月	・論文指導 (個別)		・指定校へ研究授業指導	(合格発表)
11月	・論文指導 (個別) ・面接指導 (4～5回)		・指定校へ研究授業指導	・採用カードの書き方指導 (正規採用)
12月	(入塾試験) (合格発表)		・指定校へ研究授業指導 ・採用カードの書き方指導	・採用カードの書き方指導 (期限付き採用)
1月		・論文指導 (全体)	・指定校へ研究授業指導	
2月		・論文指導 (個別)		
3月		・論文指導 (個別)		

※教職教養・専門教養については改めて指導しない。学生にキャリア支援課主催の講座を受講させ、そこで復習させる。